

大人と子どもの「仕事」は違う！

大人から見ると、子どもの行動やこだわりは謎だらけ。

たとえば、朝の身支度をしている子ども。わざわざ自分のロッカーとは程遠い机にリュックを置く。その時点で「え！？」と思うのにその上、歯ブラシとタオルを一つずつ持って行く。「同じ方向だから一緒に持って行ったらいいのに、」と思わず声を掛けそうになります。子どもは不思議でたまりません。

大人は効率よく完璧を求めがちです。つまり、大人の目的は「結果」です。ところが、子どもの場合(特に 4.5 歳頃まで)は効率ではなく、ひとつずつ丁寧に行いたい。その「過程」そのものが目的なのです。

これらの行動はからだところの成長に関係しているのだと今から 100 年程前に、イタリアの女性医師、マリア・モンテッソーリは発見しました。

そして、すべての子どもが通過する発達のプロセスを発見観察し、適した時期に、適した環境を用意する事で「自分で選んだ事をやり遂げる」経験を子どもに手渡す教育法を考えました。

100 年経った今、科学技術や AI が著しく発達し大人にとっては便利な世の中になる一方で、子どもが母体に宿り生まれ発達していく過程は何ら変わらぬという事です。

この大人と全く違う子どもの存在を知る事で、ついイライラしがちな行動も「あーまたやってるやってる」とせかすことなく見守れるようになれば、親子共に平和な気持ちでいられるのではと感じます。